

インフルエンザ定点当たり報告数

インフルエンザは定点把握対象疾患であり、医療機関の中から選定し、協力していただいている定点医療機関からのみ患者数が報告 3 ならば、1 つの医療機関で 1 週間に 3 人のインフルエンザ患者を診療した、ということになります。

この数字が 1 以上であれば、その地域は流行レベルに入ったことになり、10 以上なら注意報レベル、30 以上なら警報レベルの流行となります。警報が解除されるのはこの数字が「10」を切ってからです。

○2019-2020 シーズンの全国の定点報告（国立感染症研究所調査）：

2019 年第 38 週（9/16-9/22）の定点当たり報告数が 1.16 となり、全国的な流行開始の指標である 1.00 を超えました。

2018 年は、第 49 週で定点当たり報告数が 1 を超えており、2019 年が例年より早く 1 を超えたことから、国立感染症研究所による報告が 38 週から開始されました。39 週以降 1 未満となり、42 週で 0.72 まで低下しましたが、43 週（10/21-10/27）0.8、44 週（10/28-11/3）0.95 と再度上昇してありました。45 週で流行開始の指標である 1.00 を上回りました。

2020 年第 2 週の定点当たり報告数は **18.33**（患者報告数 90,811）となり、前週の定点当たり報告数 **13.93** より増加した。

都道府県別では愛知県(26.12)、佐賀県(25.82)、宮崎県(24.64)、岡山県(24.01)、鹿児島県(23.72)、福岡県(23.51)、群馬県(21.66)、沖縄県(21.59)、千葉県(21.26)、福島県(21.23)、長崎県(20.99)、静岡県(20.72)、山梨県(20.61)、三重県(20.56)、愛媛県(20.49)、福井県(19.89)、秋田県(19.80)、高知県(19.77)の順となっています。35 都府県で前週の定点当たり報告数より増加がみられ、12 道県で前週の定点当たり報告数より減少がみられました。

国内のインフルエンザウイルスの検出状況を見るは、直近の5週間(2019年第50週～2020年第2週)ではAH1pdm09(95%)、B型(3%)、AH3亜型(2%)の順となっています。

詳細は国立感染症研究所ホームページ

(<https://www.niid.go.jp/niid/ja/flu-map.html>)をご参照ください。

○2019-2020シーズン 長崎市、長崎県の定点報告状況(長崎県感染症情報センター報告より) :

2020年第2週(1/6-1/12)のインフルエンザ報告は、長崎市(18.12)、長崎県(20.99)で、第1週(12/30-1/5)長崎市(15.47)、長崎県(17.61)と比較すると、長崎市、長崎県ともに増加しましたが、いずれも流行レベルの指標1を超えておりました。50週以降の報告数が10以上(注意報レベルの流行)となっています。

長崎市は、40週、41週、42週と流行レベル(1以上)となりましたが、41週をピークに減少し、43週では1未満となりました。しかしながら、44週では、0.94と再度増加し、45週で1を超えました。

◎長崎県は、39週以降1未満となりましたが、長崎市が40-42週で1を超え、流行レベルとなりました。43週で1未満となりましたが、45週で1を超えました。さらに、50週以降で報告数が10以上(注意報レベルの流行)となりました。今後より注意が必要な状況になりました。

(長崎県感染症情報センターHPより抜粋、1部改変)

インフルエンザ等の感染予防のために、十分な休息、手洗い、うがい、マスクの着用等を心掛けてください。インフルエンザが疑われる症状として、のどの痛みや鼻汁・鼻づまり、発熱、頭痛、筋肉痛、関節痛、全身のだるさ等がみられましたら、早めに医療機関を受診してください。